

KIP



桂川電機株式会社

平成26年3月期 第69期 第1四半期業績概況

• 本格的な収益力の回復に向けて

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、新政権による積極的な金融及び経済対策に対する期待感から、円安・株高が進行し、企業収益の改善に明るい兆しが見受けられる一方、海外においては欧州債務国問題、新興国における経済成長の鈍化等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、販売面では、回復基調にある北米市場に注力して販売活動を行い、また、開発及び生産面では、使用部材の見直し等による原価低減に努めてまいりました。

その結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、ヨーロッパ市場における販売が減少したことにより、29億9百万円と前年同四半期の30億67百万円に比べて1億57百万円の減収となりましたが、営業利益は、円安に進んだ為替相場の影響により、73百万円の利益（前年同四半期は1億14百万円の損失）、経常利益は為替差益を1億87百万円計上したことにより、2億77百万円の利益（前年同四半期は4億23百万円の損失）、四半期純利益は2億55百万円の利益（前年同四半期は4億45百万円の損失）となり、組織業務の積極的な改善に加え、円安傾向といった為替の追い風を背に、収益力の回復に向け進行中です。

2014年3月期 第1四半期連結業績概況



<単位:百万円>

| 項目 | 2013.3-1Q 実績 | 2014.3-1Q 実績 | 前年同期比 増減額 | 業績予想 進捗率 (%) |
|--------|-----------------|-----------------|--------------|--------------------|
| 売上高 | 3,067 | 2,909 | △158 | 94.9 |
| 営業利益 | △114 | 73 | 187 | — |
| 経常利益 | △423 | 277 | 700 | — |
| 四半期純利益 | △445 | 255 | 700 | — |

<主要な為替レート>

| | | |
|------|----------|----------|
| 1ドル | ¥79.36 | ¥ 92.42 |
| 1ユーロ | ¥ 101.75 | ¥ 122.04 |

※当第1四半期決算採用レート

2014 1Q Consolidated Accounting in English



<million Yen>

| Classification | 2013.3-1Q Actual | 2014.3-1Q Actual | Year-to- year Comparison | Sales Estimate Progress (%) |
|-------------------------------------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------|--------------------------------------|
| Net Sales | 3,067 | 2,909 | △158 | 94.9 |
| Operating Income | △114 | 73 | 187 | — |
| Ordinary Income | △423 | 277 | 700 | — |
| Net Profit for the period <Exchange Rate> | △445 | 255 | 700 | — |

1 Dolor

¥79.36

¥ 92.42

1 Euro

¥ 101.75

¥ 122.04

※Applicable Rate for this
1Q period

組織とビジネスの見直しをチャンスに、
昨年をボトムとして黒化へと飛躍を！

当社グループの強みは、1960年代に開始し、その後継続して現在当社グループの基幹となる電子写真技術応用の複写機、プリンタ、スキャナといった画像情報機器に係る長年にわたり重ね築き上げた良好な経験とスキル、そして卓越した技術力にあります。

時代は変われども、開発型メーカーに求められるものは、揺るぎない技術力への自信と真摯なる謙虚さ、探求心かと思えます。

当社グループは、それを根底に更に次の一步へと、絶えず歩みを進めて行く所存です。

画像情報機器事業 2,880百万円（前年度比 159百万円減少）

- 円安が業績向上に寄与するも、市場競争が一段と激化、売上高は前年同期比でやや減収
- 高価格帯モデルは、回復に向かい推移
- 低価格帯モデルは、積極的な需要喚起を図る

その他事業 29百万円（前年度比 1百万円減少）

- モーションデバイス事業の販路拡大を継続

事業別の業績 - 画像情報機器事業



画像情報機器事業

<単位:百万円>

2013.3 1Q 2014.3 1Q

売上 3,039 2,880

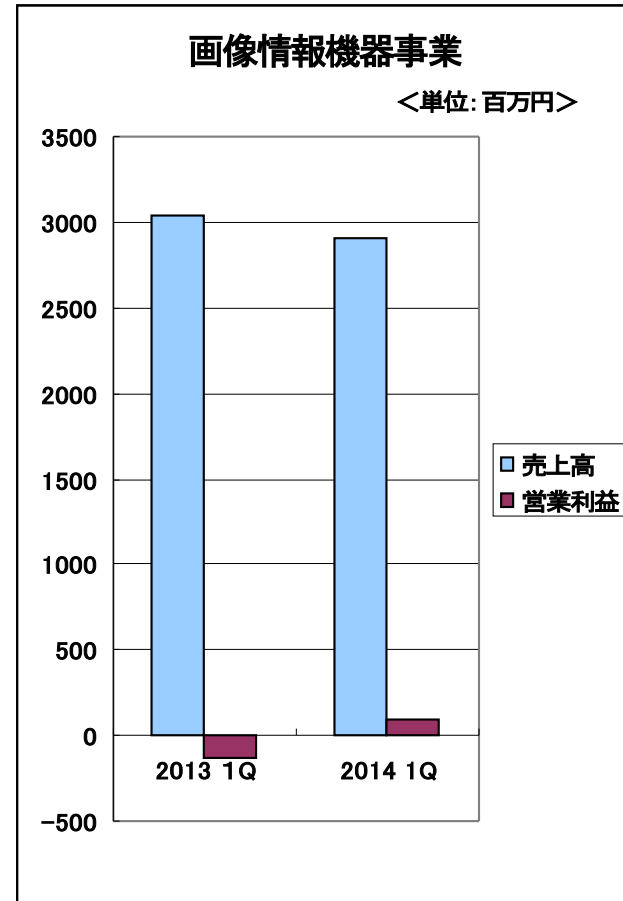
営業利益 $\Delta 110$ 80
黒字に転化

<アメリカ市場>

- ⇒営業努力により、収益悪化に歯止め
- ⇒モノクロモデルを中心に営業活動を展開

<ヨーロッパ市場>

- ⇒カラー機の拡販に注力
- ⇒モノクロモデルは他社製品との競争激化



事業別の業績-その他事業

KIP

その他事業

<単位:百万円>

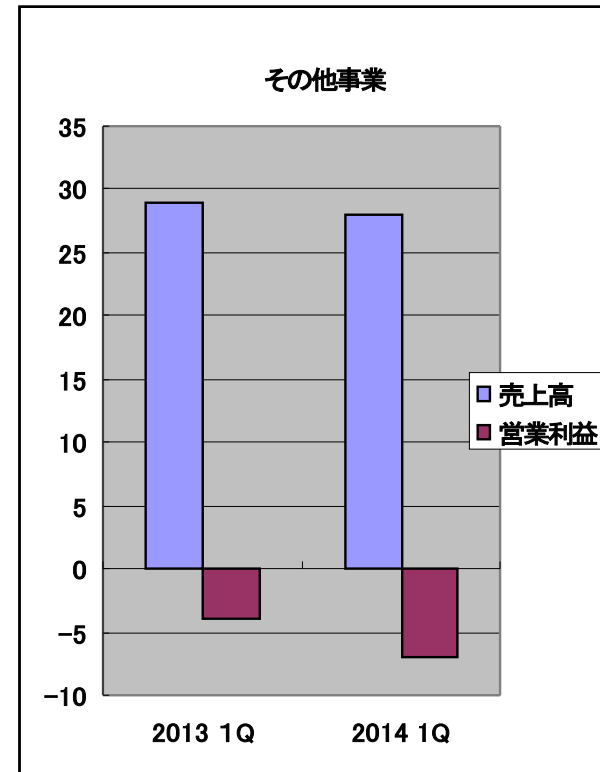
2013.3 1Q 2013.4 1Q

売上 29 28

営業利益 $\Delta 4$ $\Delta 7$

<モーションデバイス事業>

⇒マイクロモータ等を主体に顧客ニーズを
キャッチアップした製品開発・品質向上
に注力



営業外損益

KIP

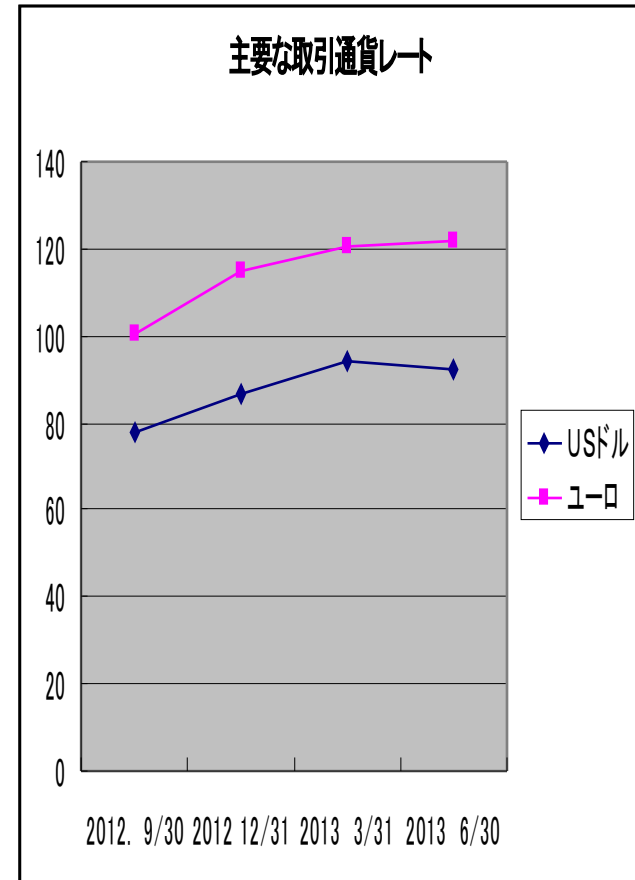
(前期 Δ 308百万円)
営業外損益 204万円

<主要な内訳>

◆為替差益 187百万円

対ドル・ユーロで円安基調。

※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート
【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】



特別損益

△11百万円

<主要な内訳>

◆特別退職金

△11百万円

当第1四半期において、収益構造の改善に向けた経費の適正化を進める中で人員の削減を実施。

今後の取組について

KIP

収益構造の改善、生産構造改革を継続

事業環境を勘案し、組織構造の変更並びに人員の適正化を継続

新規事業の開拓、他

